

令和 8 年度予算方針説明にあたって こども未来共創都市ニセコ(2024-2035)

予算策定作業に当たって、私の公約である「**7つの挑戦**」に配慮した予算提案をお願いします。

1、対話で動かすまちへの挑戦(住民自治と行政改革)

まちづくり基本条例検討委員会の答申にもあるように「情報共有」と「住民参加」の取組を更に浸透させ、信頼される行政組織と共に職員が誇りをもって働ける環境づくりに挑戦。

(1)住民自治に必要な場と支援

- ①対話集会の継続的な開催
- ②町民講座、住民説明会を双方の学びと意見交換の場へ
- ③地域活動団体や住民のまちづくり自主活動支援を強化

(2)時代に合った行政運営の改革

- ①働きやすい職場環境や柔軟な働き方の推進
- ②人材投資の強化(人材育成・研修機会)
- ③副業人材の活用、行政経験者の再登用など人材の流動性と多様性を広げる。

2、こどもまんなかのニセコへの挑戦(住民自治と行政改革)

ニセコらしい学びと教育を充実させ、子供たちが地域に誇りを持ち、地元に戻ってきたくなる循環を生み出す。

(1)子育てと学びを支える施設整備

- ①全天候型子育て・交流拠点整備
- ②こどもの居場所や遊び場の充実(既存施設改修)
- ③学びの場の快適性・安全性の向上
- ④小中高校生用学習機器の更新支援

(2)子どもと家庭を支える支援制度の充実

- ①高校生までの医療費無償化の継続
- ②一時預かり、産前産後ケア、不妊治療支援の充実など子育てを幅広くサポート
- ③スポーツ、文化芸術・スキースノボ活動の支援
- ④多世代参加イベントの推進
- ⑤食育、部活動地域移行、子ども議会など子ども達が主体的に関われる機会の拡充
- ⑥ニセコ高校改革、奨学金制度の拡充
- ⑦小中の給食費無償及び高校第2子以降無償の継続
- ⑧こども誰でも通園制度の実施。
- ⑨児童・保護者へのスキーリフト券の支援(内容検討)

3、住まいとインフラ整備に挑戦(暮らしを守る、次世代につなぐ基盤づくり)

官民連携による将来を見据えた基盤づくり。過大投資にならぬ対話と議論の深化。

- ①公用バスの導入検討
- ②公有地活用による民間主導住宅整備
- ③家賃助成の段階的導入検討
- ④公共施設エアコン導入推進
- ⑤水資源保全や上下水道の整備
- ⑥除排雪の持続的な体制づくり
- ⑦森林パトロール員の試験導入
- ⑧公共施設、公営住宅の管理運営見直し
- ⑨水資源ほぜんや上下水道の整備
- ⑩防災体制の強化
- ⑪消防庁舎の外構、備品、移転、既存施設解体
- ⑫市街地区浄水場の整備、水道中央監視装置更新、ニセコ・曽我地区配水管更新
- ⑬新団地整備事業の継続
- ⑭林道ニセコ桂台線新設(継続)

4、地域で健康増進の挑戦(スポーツ・文化・交流で健康寿命を伸ばす)

年代や性別を問わず、運動や文化を通じてコミュニティを広げる。また、地域環境を活かした健康増進の取組を推進し、地域全体で健康とウェルビーイングを実現。

- ①体育館改修検討
- ②トレーニング施設の検討
- ③サッカー場などスポーツ施設検討
- ④総合型地域スポーツクラブの連携
- ⑤生涯スポーツと競技力向上の取組
- ⑥フットパス、ハイキング、ウォーキングの推奨
- ⑦森林浴等健康プログラムの推進
- ⑧スポーツイベントなど移動交通手段の充実
- ⑨町民主体スポーツ・文化・芸術活動支援
- ⑩高齢者見守り制度の拡充
- ⑪ニセコスタンダード住宅や省エネ改修の推進
- ⑫プロスポーツチームとの連携

5、地域経済のさらなる振興への挑戦

(農業と観光を軸に地域資源を活かす仕事と地域づくり)

ニセコ町の資源を生かし、地域に活力を生み出す。伴走型支援で農業と観光を軸に地域内外と連携する。後継者の確保や働き手の確保に挑戦。住み続けられる・帰ってきたくなるニセコをつくる。

- ①観光協会の体制強化
- ②ニセコブランド化の支援
- ③新たな商業に挑戦する場の整備
- ④町有地貸与による民間企業との連携
- ⑤誰もが働きやすい仕事のマッチング
- ⑥地域内経済循環の強化
- ⑦地域資源のブランディング(通年観光)
- ⑧国営農地再編整備事業(換地、所得補償)
- ⑨農業資材のなどの支援
- ⑩農業者向け資格取得の支援
- ⑪新規就農・後継者育成支援
- ⑫農産物付加価値向上推進事業の継続
- ⑬森林ビジョンの実現(見本林の整備)
- ⑭ニセコルールの強化(特区活用)
- ⑮特定地域づくり事業協同組合事業補助
- ⑯2次交通利便性・オーバーツーリズム対策

6、次世代まちづくりの挑戦

(農業と観光を軸に地域資源を活かす仕事と地域づくり)

交通、医療、福祉、買い物、脱炭素など、暮らしに直結する課題に対し、デジタルや AI を活用しながら地域や分野を超えた連携で新たな解決策を進める。

- ①新しい公共交通の取組への挑戦(市街地バスの自動運転実証実験等)
- ②デマンドバスの町民優先運用 ③移動販売車の誘致
- ④遠隔医療、薬の宅配実証実験 ⑤デジタル・AI 活用で生産性・効率性向上
- ⑥脱炭素社会への適用 ⑦広域連携・官民連携の強化・促進
- ⑧少子高齢化社会への適用 ⑨役場・公共施設のキャッシュレス・デジタル化の検討
- ⑩公共施設太陽光(消防庁舎、高校寮、幼児センター)
- ⑪一般住宅・事業所等の太陽光発電、ZEH+新築、高効率空調、高効率給湯補助
- ⑫光回線未整備地区解消への支援検討 ⑬俱知安厚生病院第2期整備継続
- ⑭第5次障がい者基本計画・第8次障がい者福祉計画、地域福祉計画の策定
- ⑮生活の家支援の継続と支援拡充検討 ⑯ニセコ福祉会運営方法検討

7、稼げる自治体への挑戦

(関係人口や企業の創出と公共財産の有効活用へ)

活気ある町には、安定した財政基盤が欠かせない。ニセコブランドを活かし「自ら稼ぐ自治体」へ転換し、その果実を地域に還元し未来を支える力に育てる。

大規模公共事業の起債償還が始まる。財源を生み出す取組が必要。個人・企業版ふるさと納税、共感型寄付、公共施設活用、企業誘致など、収入源を多角化し、過疎指定卒業後も発展する体制を整える。稼ぐ力で守るのは財政だけでなく、ニセコで暮らす人々の安心と誇り(高齢者福祉、防災、インフラ整備など)。

(1)新たな財源の確保と活用

- ①ふるさと納税の強化(個人・企業) ②共感型寄付の推進
- ③物語型クラウドファンディング ④共創型社会投資(まちの課題解決)
- ⑤宿泊税の定率制への移行 ⑥広報等媒体の企業広告枠の強化
- ⑦視察対応の有料化 ⑧施設のネーミングライツ

(2)町内資源の見直しと活用

- ①施設・財産等を活用した官民連携事業を推進し、施設の運営方法、利用料・家賃設定を見直し(町民優先、財政健全化)。
- ②企業・団体との連携拡大。